

第10回ジュニアヨットクラブジャンボリー実施報告書

実行委員長 葛西信一

1. はじめに

新型コロナウイルスで日常生活が大きく制約されるなか、徐々にイベントなどの活動が再開され始めた2022年の大型連休5月3日～5日の3日間にわたり、第10回ジュニアヨットクラブジャンボリーが、茨城県行方市で開催されました。ジャンボリーの開催はコロナ禍の影響で2019年以来となりますが、前回と同じ茨城県行方市の霞ヶ浦天王崎公園を会場に茨城県セーリング連盟と行方市・麻生ヨットクラブの共催として行方市のご後援をいただきました。また宿泊は北浦を望む茨城県立白浜少年自然の家を利用しました。開催期間中は好天にも恵まれ、楽しく充実した3日間を過ごすことができました。

2. 概要

■時期：2022年5月3日（憲法記念日）～5日（子供の日）

■場所：水上活動は茨城県行方市天王崎公園、宿泊は茨城県立白浜少年自然の家

■実施機関

主催：一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下JJYUという）

共催：茨城県セーリング連盟、麻生ヨットクラブ

後援：茨城県行方市

■ジャンボリーの目的とねらい

- ① 共同生活により青少年の心身の育成を図る。
- ② 環境保全を目的として、自然と親しみ維持していく。
- ③ 2泊3日の共同活動にて、たくさんの友達をつくろう。
- ④ 保護者・コーチの交流を深める。

3. 参加者

今回はコロナの影響で参加を見合わせたクラブもあったなか、2チームより選手16名（男性6名、女性10名）、指導者・保護者13名、麻生ヨットクラブ（延べ50名）、JJYU関係者8名と多くの人が集うイベントとなりました。

■参加クラブと人数

葉山町セーリング協会 選手11名 指導者・保護者12名

NPO法人横須賀ヨット協会ジュニアヨットクラブ 選手5名 保護者1名

4. 実施内容

5月2日(月)

準備のため、麻生ヨットクラブに集合。

5月3日(火・憲法記念日)

8時に天王崎公園麻生ヨットクラブハーバー前のゲートを開きました。葉山町と横須賀市からの参加者たちは車にOPを積んで続々と会場に到着しました。

予定通り10時から天王崎公園の麻生ヨットクラブハーバー内の砂浜において、開会式を開催しました。JJYU野村理事の司会のもと筒井常務理事による開会宣言の後にJJYUの中川副会長、茨城県セーリング連盟の高橋理事長、麻生ヨットクラブの内田キャプテン、そして行方市の永峰副市長よりご挨拶をいただきました。



開会式風景



JJYU 中川副会長



茨城県セーリング連盟 高橋理事長



麻生ヨットクラブ 内田キャプテン



行方市 永峰副市長

開会式の後にはA・Bチームに分かれてオリエンテーリングを行いました。

■チーム分け

Aチーム：中川コーチ（JJYU）、水野コーチ（JJYU）

Bチーム：竹腰コーチ（JJYU）、橘コーチ（葉山町セーリング協会）



Aチーム



Bチーム

引き続き10時30分からカヌー体験会を実施しました。最初はパドルさばきもぎこちなかった子供たちも、すぐに水の上をスイスイと走り回っていました。

カヌーの体験試乗と同時にジェットスキーの体験も行いました。子供たちが歓声をあげてスリルを楽しんでいたのはジェットボートに曳航されて水上を爆走するバルーンボートでした。あまりのスピードに、ボートから水上に放り出される子供が続出。子供たちはずぶぬれになりながら歓声をあげて楽しんでいました。



カヌー教室



カヌーの試乗



ジェットボートに引かれたバルーンボート

■水辺スポーツ体験メニュー

カヌー（指導者2名、2艇）

水上バイク（ドライバー2名、2艇）

この日は午後2時30分に活動を終了、車で白浜少年自然の家に移動しました。自然の家に到着後は恒例の入所式・初めの集いがありました。入浴の後は午後6時からお楽しみの夕食です。今回の食事はコロナ対策で、1テーブル4名までのキープディスタンスですが、皆おいしそうに食事を楽しんでいました。

■入所後の時間割

午後3時30分 初めの集い

午後5時 入浴

午後6時 夕食

午後7時 ミーティング（ロープ結び講習）



お楽しみの夕食



ロープの結び方講習、2チームに分かれての“もやい結び”競争

5月4日（水・みどりの日）

一日の始まりはラジオ体操から。眩しい朝日をあびてさわやかな緑の芝生広場で体操をすると、心も体も活き活きと目覚めてくるのがわかります。

■朝の時間割

午前6時30分 起床

午前7時 ラジオ体操

午前7時30分 朝食

午前9時 白浜少年自然の家を出発



午前 10 時より天王崎公園にて活動を開始。この日は天王崎公園から霞ヶ浦の対岸にある浮島までセーリング、全員で浮島に上陸し昼食を取った後ふたたびセーリングで天王崎公園に帰ってくるという「セーリングピクニック」を実施する予定でした。天気は晴れだったのですが、最大 6m 風が吹き上げたうえ、運営艇がエンジン不調で使用不能になるトラブルが発生、昼過ぎに全艇ハーバーバックすることになりました。

昼食後も風は収まらないため、急遽予定を変更し、参加者全員が車に分乗し霞ヶ浦周辺にある水辺の施設を見学するツアーを実施しました。最初に向かったのは横利根川閘門です。ここは水位差のある利根川と横利根川とを船で通行できるように、いまから約 90 年も前に造られた施設です。かつて利根川が水運で栄えたころの面影を伝えるレンガ造りの閘門は、いまはずかには自然のなかに佇んでいました。次の目的地は佐原市にある“水の郷さわら”。ここでは利根川の水害の記録や治水の歴史などの展示を係員の方が判りやすく説明してくれました。帰りにはおみやげまでいただいて、何だか得した気分でした。見学の後は白浜少年自然の家への帰路につきました。



天気晴朗なれど



強風に悪戦苦闘



横利根川閘門で全員集合



水の郷さわらの展示品を見学

帰所後に入浴と夕食を済ませると、ジャンボリーでは欠かせないイベントのキャンプファイヤーが始まります。真っ暗な自然の家の中庭に、たいまつを持った火の神が登場。積み上げられた薪に点火するとあたりが明るく幻想的にかびあがります。このあとは各自部屋にもどり、消灯時間ぎりぎりまで元気に過ごしていました。



火の神集合

5月5日(木・こどもの日)

午前6時30分 起床

午前7時 ラジオ体操

午前7時30分朝食

午前8時30分 白浜少年自然の家の皆さんに3日間お世話になったお礼を済ませてから、天王埼公園に向かいます。

この日は穏やかな風の中、子供たち全員でセーリングを開始。穏やかな風の中コーチボートの先導で、前日上陸できなかった浮島を目指しました。保護者の皆さんはクルーザーに分乗し、霞ヶ浦の風景を楽しみながら子供たちを見守ります。浮島が目の前にせまったところで天王崎に進路を転換。スピードを競うのではなくゆっくりとセーリングを楽しみます。普段の練習とは一味ちがう穏やかな時間を過ごすうちに、天王崎の砂浜に到着しました。



浮島目指して出発



天王崎から2.5kmの浮島に到着

到着後はおなじみになったカレーの昼食です。カレーのほかにもお餅のデザートが用意されており、子供たちはお腹いっぱいになり満足の様子でした。

昼食後は閉会式を行いました。麻生ヨットクラブの皆様に三日間お世話になったお礼を申し上げて解散となりました。

5. おわりに

コロナ禍のなか、宿泊を伴うジャンボリーの開催はギリギリまで先が見通せない状況でした。参加されなかったクラブの方からは、コロナの影響を考慮し参加を見合わせたいとお声も頂戴しました。もっともなことだと思います。それでも、開催を楽しみにしていच्छる方々の期待を感じて、実施することを決定しました。

ジャンボリーの目的である、子供たちの心身の育成、自然と親しむ、友達をつくる、他のクラブとの交流は今回も十分達成できたと思います。なによりも、この2年間いろいろな縛りのなかできゅうくつな思いをしていた子供たちが、この3日間のびのびと楽しい時間を過ごすことができたのではないかと思います。

後援いただいた行方市そして共催の茨城県セーリング連盟の皆様にあらためてお礼を申し上げます。また白浜少年自然の家では、参加者のアレルギー対応で別途食事メニューを用意していただきました。普段は食事がネックになり外泊を控えていたという参加者も皆と一緒に3日間過ごすことができ、有意義な経験になったことと思います。そして何よりも3日間の動員人数50名もの体制で子供たちの活動をサポートしてくださった麻生ヨットクラブの皆様、皆様のサポートのおかげで無事に3日間の活動を終えることができました。あらためて感謝を申し上げます。そのほかにも活動の様子を取材してくれたなめがたエリアテレビのスタッフの皆様、水郷ボートの皆様、水の郷さわらの皆様など、地元の皆様にもお礼を申し上げます。



皆さんの参加をお待ちしております。

来年もよろしくお願ひします！！！！